

## 授業公開

### 1. 企画趣旨・目的

教育の質向上を目指す諸活動の一環として、例年実施されている教員相互の授業公開を令和 5 年度も実施した。

教員相互で授業を見学することにより、各教員の授業の改善・向上を図るとともに、本学のディプロマポリシーとの関連を明確にし、指導と評価の一体化を図る機会とすることを目指す。本学での学生の学びを可視化すること、科目同士の関連や到達度に配慮した授業展開に向けて、昨年度に引き続き、学生が身につけるべき三つの資質・能力と、第四次教育体制において新全学ディプロマポリシーに謳われる教育評価の三要素の対照マトリクスにおける 9 観点を授業見学の視点とした。

### 2. 実施概要

- ①見学期間（事前に授業担当者と交渉することで期間外の参加も可能）

2023 年 10 月 25 日（水）～ 12 月 19 日（火）

\* 昨年度より見学期間を延長して実施（1 週間→2 ヶ月間）

\* 昨年度は学科ごとに授業公開・見学の期間を分けていたが、今年度は撤廃して実施

- ②見学対象科目 原則、すべての授業科目が対象。

\* 「コミュニケーション演習」と「英語コミュニケーション応用」は見学対象外

### 3. 見学記録の結果

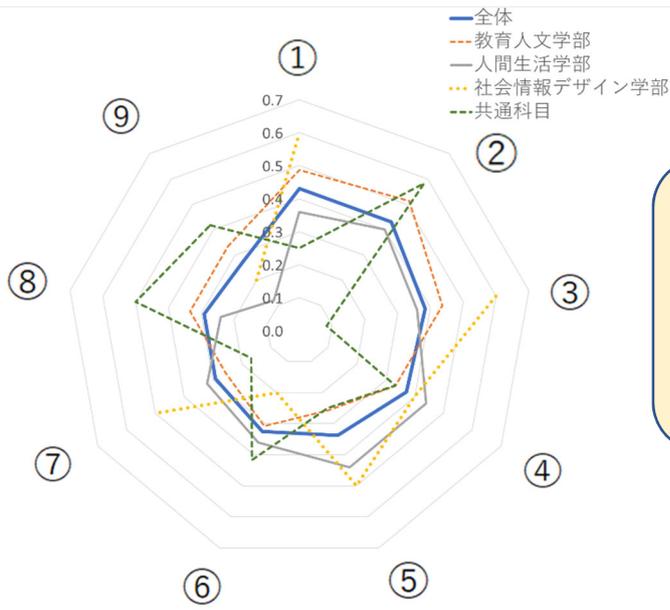
#### 参観者数について

のべ 86 名の参観者数であり、昨年度より 6 名増加した（専任教員 70 名、非常勤教員 4 名、職員 12 名）。見学期間を延長して実施したことが好評であり、実施の時期や期間については、前期と後期もしくは通年公開の要望が例年にも増して多く寄せられた。見学期間を定めない、通年公開を基本とすることを提案する。

#### ディプロマポリシー（9 観点）と授業内容の関連について

- 1) 重点的に指導されていると思った資質・能力（3 つ選択）について、学部別および授業形態別（内訳：演習 35 件、講義 44 件、実験・実習 7 件）に示す。昨年度の授業公開で参観された授業では⑧と⑨の観点が他より扱われていなかったが、今年度は比較的「全体」のバランスが取れているように見える。これは参観者数が昨年度より増え、より多くの授業が参観されたことによると考えられる。来年度以降も右肩上がりに増えていくことを期待したい。このことが、「講義」や「実験・実習・実技」など科目の特徴による扱いやすい/扱いにくい観点の偏りを補い合うこととなり、学生の学びをより正確に可視化していくことにつながるだろう。

【学部等別】

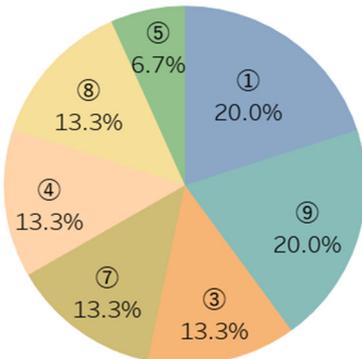
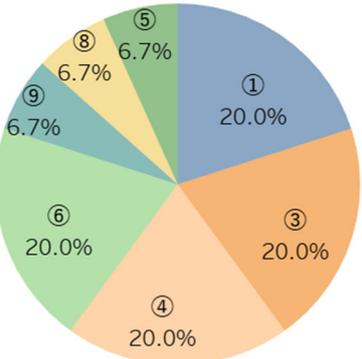
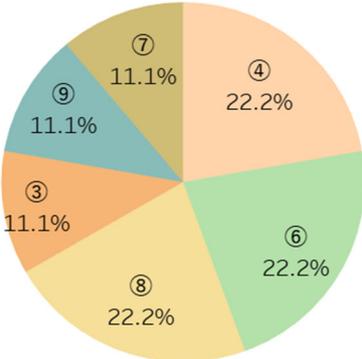
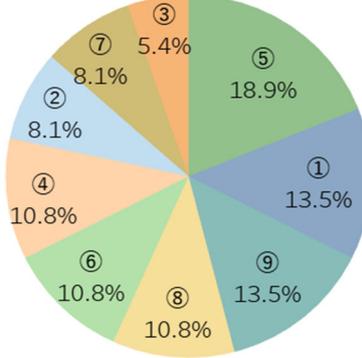
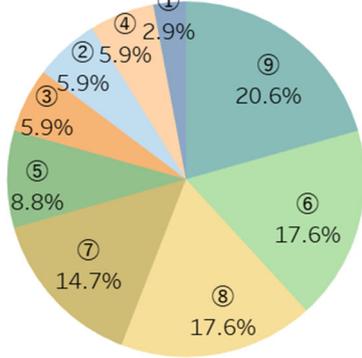
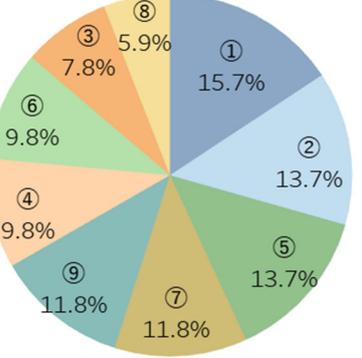
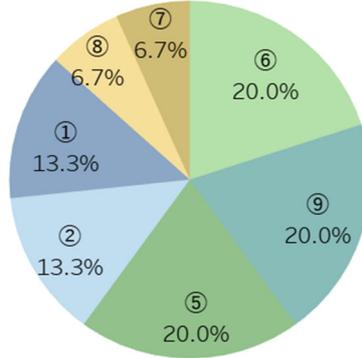
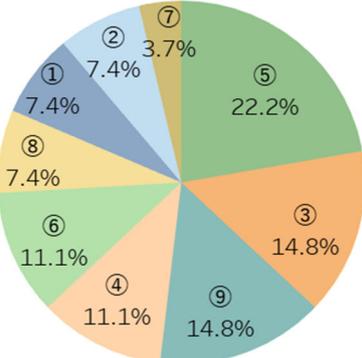
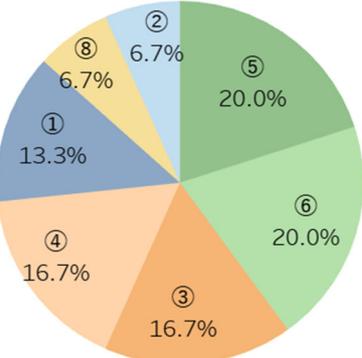


- ① 基礎学力・教養【知識・技能】
- ② コミュニケーション力【知識・技能】
- ③ 情報活用能力・課題発見力【知識・技能】
- ④ 論理的思考力【思考力・判断力・表現力】
- ⑤ 多様な価値観の理解【思考力・判断力・表現力】
- ⑥ 探求力【思考力・判断力・表現力】
- ⑦ 主体的行動【主体性・多様性・協働性】
- ⑧ 連携・協働力【主体性・多様性・協働性】
- ⑨ 実践力【主体性・多様性・協働性】

【授業形態別】



2) 重点的に指導されていると思った資質・能力(3つ選択)について、学科別の円グラフを示す。ディプロマポリシー(9観点)を授業見学の視点とした新たな試みから2度目の授業見学を迎え、各学科の学びのバランスが昨年度と比較してどのように変化したのか考察する。学科名の横には参観者が重点的に指導していると思った資質・能力の数(昨年度の数⇒今年度の数)を表している。人間福祉学科、幼児教育学科、児童教育学科、文芸文化学科は9観点すべてが揃っており、特に人間福祉学科と児童教育学科は9観点がバランスよく扱われていることが伺われた。心理学科と健康栄養学科は扱われている観点の数が増加し、食物栄養学科、食品開発学科、社会情報デザイン学科は減少している。今後、学科内すべての授業が見学されるようになれば、学科の特色と扱いやすい/扱いにくい観点の傾向がより正確に現れてくるだろう。学科の指導傾向を正しく把握するためにも、来年度以降も実施される授業公開の見学者が増えていくことを期待する。

健康栄養学科 (6⇒7 観点)	食物栄養学科 (8⇒7 観点)	食品開発学科 (7⇒6 観点)
 <p>「コミュニケーション力」がなくなり、「論理的思考力」と「多様な価値観の理解」が加わった。</p>	 <p>「コミュニケーション力」と「主体的行動」がなくなり、「多様な価値観の理解」が加わった。</p>	 <p>「基礎学力」と「多様な価値観の理解」がなくなり、「主体的行動」が加わった。</p>
人間福祉学科 (9⇒9 観点)	幼児教育学科 (9⇒9 観点)	児童教育学科 (9⇒9 観点)
 <p>昨年度に引き続き、9 観点すべてがバランスよく揃っている。</p>	 <p>昨年度に引き続き、9 観点すべてが揃っている。</p>	 <p>昨年度に引き続き、9 観点すべてがバランスよく揃っている。</p>
心理学科 (3⇒7 観点)	文芸文化学科 (9⇒9 観点)	社会情報デザイン学科 (8⇒7 観点)
 <p>「情報活用能力」がなくなり、「多様な価値観の理解」、「実践力」、「コミュニケーション力」、「主体的行動」、「連携・協働力」が加わった。</p>	 <p>昨年度に引き続き、9 観点すべてが揃っている。</p>	 <p>「主体的行動」がなくなった。</p>

次に、授業見学者による記述より「良い取り組み」として挙げられた授業の具体例を共有し、授業公開・授業見学を実施する今日的な意義について述べる。

### 《授業見学者が挙げた良い取り組み》

学生の主体的な学修を実現するための工夫が多数挙げられた。スライド画面上にリアルタイムに受講生のコメントが流れるシステムの活用や、事前アンケートの集計結果・クリッカー回答等と結びつけながら発問して学生たちに自分事として考えさせる工夫が見られた。ICT も活用しながら様々な発言方法を取り入れ、学生の思考を見えるようにしていくことで学生の授業への参加度を高めていきたい。

授業の構成や時間配分の工夫としては、Google Forms で学生から解答を回収し、正解率の低い問題を特定することにより学生にとっての難問の解説を重点的に行う授業があった。学生が毎回の授業の内容を振り返り考えを整理するために、リアクションペーパーを用いる授業はあると思われるが、前週のリアクションペーパーを共有しながら解説を入れることでより深い理解につながるなどの記述も見られた。学生の記述に対するフィードバックを興味深いものにするにより、予習復習への意欲を高める効果が期待できる。毎回の授業における学生/教員間の対話の質についても考えていきたい。

学生同士の対話が活発である授業例としては、学生がペアになってカウンセラー役とクライアント役を担当し、模擬カウンセリングの動画とその逐語記録（事前課題）を教材として授業が展開された例が挙げられた。学生自身が体験したカウンセリング過程を振り返りながら報告することで活発に意見を述べる事が可能になったようだ。他にも、学生が書いたエッセイを全員で講評する授業において身近な話題を社会的な視点と関連づけて文章で表現させることで学生の問題意識を鮮明にさせ、相互の講評により文章の校正等の学習効果もあったとの記述があった。今後とも授業公開による教員相互の学び合いを継続し、学生の学習への参加度と相互の学び合いの質を高める様々な工夫について共有していきたい。

### 《授業公開・授業見学の意義》

「授業参観によって学生の実態を把握することが肝要である。教師の指導法というよりは、学生の実態に対応して、いかなる工夫が妥当であるかを検討する機会になるとさらに良いのではないか」との意見があった。学生の学んできた環境、学修方法、考え方は多様である。教員が学生の考え方や状態をどのように捉え、臨機応変に教授法を工夫しているかについても学び合いの機会になると良い。そのためにも、後期の授業だけではなく年間を通して授業公開・授業見学を実施し、教員同士の情報交換が活性化することが望ましい。

また、授業公開・授業見学を実施する意義として、「自身が担当する教科指導の内容と共通する知識、指導法があるため他の先生方の内容をふまえて授業をするとさらに充実することもあると再認識した」との記述があった。ディプロマポリシー・学科カリキュラムポリシーを共通の視点として授業見学に参加することにより、授業を通して学生は何ができるようになるのかを意識しながら毎回の授業に取り組むができ、そのことが学びの質保証につながると考えられる。

以上